

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



茅小だより 6月号

令和3年5月31日（月）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校
校長 吉野 利彦

「なぜ？」から生まれる 本質的な学び

あじさいの紫が日ごとに深まる今日この頃ですが、保護者や地域の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

学校では、6月5日（土）の運動会に向けて、どの学年も順調に練習や準備が進んでいます。子どもたちの気持ちも本番モードに入り、校長室にも、子どもたちの元気のいい声が連日響いてきております。当日は、一人一人の子どもたちの輝く姿をたくさん見ることができると確信しております。

さて、今回は、日本のある小学校での素敵な学びをご紹介します。

チョウが好きな教育実習生が、クラスにアゲハチョウのさなぎを持ってきました。子どもたちは、「早くかえらないかな」と毎日わくわくしながらさなぎの様子を観察していました。そして、ある朝、ゆっくりと羽を動かす羽化したばかりのアゲハチョウを見ることができたのです。子どもたちは、大興奮でした。すると、子どもたちから新たな疑問がわき上がってきました。「あのさなぎの中でどんなことが起きたんだろう？」と。

数日後、何人かの子どもが、チョウの幼虫を探して、学校へ持ってきました。「どんなチョウになるんだろう？」「幼虫からチョウになるまでどれくらいかかるんだろう？」教室は、チョウの話題でいっぱいになりました。そして、ある日、幼虫がさなぎになろうとしている瞬間を目の当たりにすることができたのです。子どもたちは、夢中で、さなぎになろうとしている幼虫を見続けていました。

アゲハチョウとの出会いをきっかけに、子どもたちは心を揺り動かされ、「なぜだろう？」「すごい！」「やってみよう！」と学びを深めていったのです。

本校も、3年生が、カイコの飼育と観察を始めています。カブトムシの幼虫を育てているクラスもあります。子どもたちが、様々な気づきや発見から、新たな課題を見出し、自ら学びを深めてほしいと願っております。